

降り積もった雪をどうする? 市の取り組みと課題

除雪

路面の雪を道路脇に寄せる作業で、降雪量10cmを目安に開始します。市内全域で一晩作業を行うと、総延長は約5,300kmに。これは札幌から沖縄県の石垣島までを往復する距離に相当します。



大雪が降ったときの対応は?

昨年度のような局地的な大雪に対応するため、緊急時の応援体制を確立し、円滑に作業を行えるようにするとともに、市民の皆さんへの情報提供をより充実させます。

排雪

除雪を繰り返すことで道路脇に積み上がった雪を、運び出す作業です。昨冬の市内の排雪量はなんと札幌ドーム12杯分。その雪の多くは雪たい積場に運ばれていますが、現在さまざまな課題を抱えています。



排雪した雪の置き場が足りなくなる!? 今、雪たい積場が抱えている課題

課題1

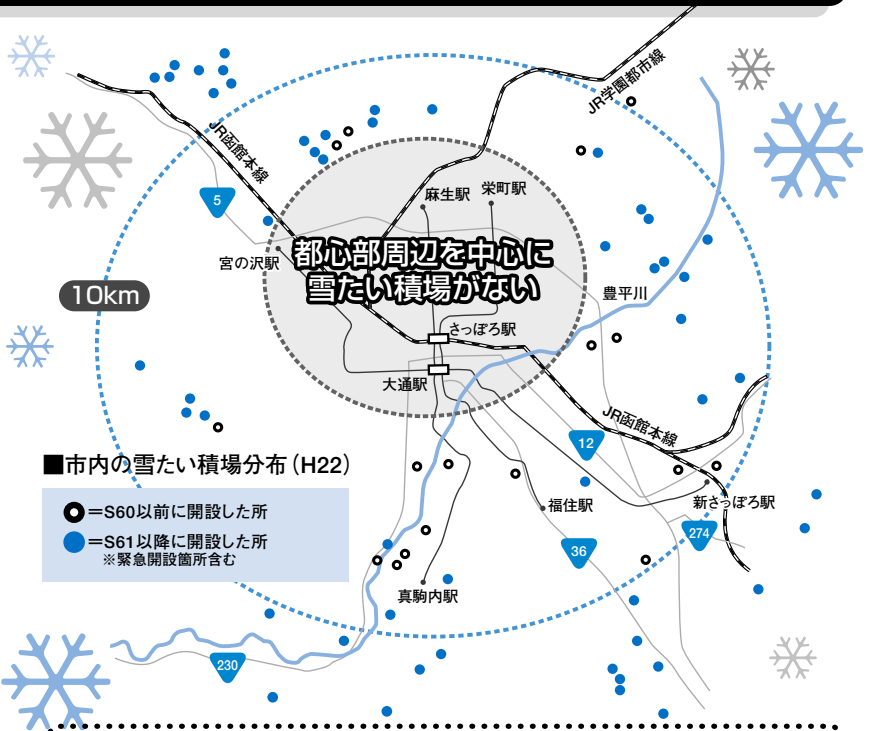
安定的な土地の確保が難しい

雪たい積場の多くが借地であり、所有者の事情で継続的な使用が困難になることも。また、近隣住民の協力を得にくいことなどから、広い土地を新たに確保することも難しくなっています。

課題2

市街地から遠くなっている

人口が増え、都市化が進んでいる中で、雪たい積場を市街地に設けることが難しくなっています。そのため雪たい積場の郊外移転が進んでおり、排雪した雪の運搬に、より多くの時間と費用が掛かっています。



豊平川河川敷は雪を置くための貴重な空間

雪たい積場の郊外化が進む中で、豊平川河川敷は市街地にある貴重な積スペースです。今後も、ダンプトラックの騒音を防いだり、排雪された雪に含まれるゴミを取り除いたりするなど、地域の環境を守りながら、豊平川河川敷を有効に活用したいと考えています。

スムーズな排雪が難しくなっています

排雪された雪を運ぶダンプトラックの運行を管理していますが、雪たい積場が遠く、運搬に時間がかかっています。ダンプトラックの数には限りがあるため、排雪作業が遅れないよう、車両の調整に頭を悩ませます。効率的な作業を心掛けていますが、スムーズな排雪を行うため、皆さんのご協力をお願いします。

とくさしひでのり
豊平区東地区除雪センター長 徳差 英憲さん



私たちの冬の暮らしを守るため、市は皆さんと協力しながら、さまざまな取り組みを進めています。